

18th うえだ城下町映画祭

その日、ゴジラは
やってくる



The Day
The Godzilla
Comes Out

会場 上田映劇 (11/29,30)
幻灯舎 (11/29,30)
上田市マルチメディア
情報センター (12/6,7)

11/29(土) 会場 上田映劇

11/30(日) 会場 上田映劇

2日目

1日目

■第1部	
9:00~10:23	放射線を浴びた[X年後]
10:35~12:12	ゴジラ(1954)
■第2部	
オープニングセレモニー	
13:20~15:14	「また、必ず会おう」と 誰もが言った。
15:30~16:23	あの電燈
16:30~17:10	ゲスト挨拶・対談 古厩智之監督 (「また、必ず会おう」と 唯野未歩子氏 誰もが言った。) 鶴岡慧子監督 (あの電燈)
■自主制作映画コンテスト(入場無料)	
17:15~17:45	自主制作映画コンテスト 表彰式
17:50~	自主制作映画コンテスト 大賞作品

ゲスト



古厩智之監督 唯野未歩子氏 入江悠監督 鶴岡慧子監督

主催/うえだ城下町映画祭実行委員会

共催/SBC信越放送

特別協賛/信州ハム株式会社

後援/上田地域広域連合、上田商工会議所、社会福祉法人上田市社会福祉協議会、上田観光コンベンション協会、一般社団法人長野県情報サービス振興協会東信支部、一般社団法人上田青年会議所
上田商業21世紀会、東京上田会、公益財団法人八十二文化財団、JR東日本上田駅、しなの鉄道株式会社、上田交通株式会社、信濃毎日新聞社、信州民報新聞社、東信ジャーナル社
週刊上田新聞社、上田ケーブルビジョン、丸子テレビ放送株式会社、信州大学繊維学部、長野大学、上田女子短期大学、長野県工科短期大学校
協力/TOHOシネマズ株式会社、本町自治会、本町商工親会、上田市松尾町商店街振興組合、海野町商店街振興組合

問合せ/うえだ城下町映画祭実行委員会(事務局/上田市教育委員会 文化振興課) TEL: 0268-23-6361 (土・日・祝を除く 9時~17時) 当日: 上田映劇 0268-22-0269 (9時~19時)



©2014映画『青天の霹靂』製作委員会



11月30日(日)
第2部 18:50~
●ゲストトーク
劇団ひとり監督

第12回自主制作映画コンテスト

●会場 幻灯舎

入場無料

11月29日(土)

9:00~10:49

「ハローゼア」

鈴木研一郎監督

(監督挨拶あり)

第8回自主制作映画

コンテストに於いて

審査員賞受賞

11:00~15:00

コンテスト審査員賞

受賞作品上映

●会場

上田市マルチメディア情報センター

12月6日(土) 7日(日)

13:30~

第12回自主制作映画

コンテスト受賞作品上映

※詳細は決まり次第ホームページでご案内します。

11月30日(日)

10:00~16:50

コンテスト

選定作品上映

17:15~

◆トーク&交流会

ゲスト 入江悠監督

参加費: 500円

■第1部	
9:00~10:53	ペコロスの母に会いに行く
11:00~12:08	SHORT PEACE
12:45~13:15	サムライフ: 予告・トーク
13:15~14:51	青天の霹靂 (1回目) (ゲストトークは第2部のみです)
■第2部	
15:10~17:00	SRサイタマノラッパー ロードサイドの逃亡者
17:10~18:46	青天の霹靂 (2回目)
18:50~	ゲストトーク 劇団ひとり監督

チケット料金

前売券発売は11月28日(金)まで

■料金は両日とも第1部、第2部 それぞれ1枚につき
一般 1,200円 高校・大学生 500円
(前売1,000円) 中学生以下 300円 です。

●全て税込・未就学児無料
●障がい者割引有り
障がい者手帳をお持ちの方と
その介助者1名半額

●インターネットでの申込みは映画祭のホームページから
<http://www.unic.jp/eigasai/index.html>

●ケータイでのチケット予約はQRコードから

●映画祭当日、チケット半券で本町等のお店での優待あり

●チケット取扱い

平安堂(上田店、上田しおだ野店、長野店、若槻店、更埴店)
幻灯舎、上田創造館、上田市マルチメディア情報センター
上田文化会館、武石公民館、丸子文化会館、真田中央公民館
上田市教育委員会第二庁舎(文化振興課)



映画祭HP用



チケット予約用

11/29(土) 第1部
放射線を浴びた[X年後]



©南海放送

2012年 製作著作：南海放送
監督：伊東英朗
出演：ナレーション：鈴木晋吾 朗読：保持卓一郎 登場する人々：幡多高校生ゼミナール 太平洋核被災支援センター 公益財団法人第五福竜丸平和協会 第五福竜丸展示館 全日本海員組合 平和資料館「草の根」

1954年アメリカが行ったビキニ水爆実験。第五福竜丸以外の「被ばく」は、人々の記憶、そして歴史からいともなげに消されていった。闇に葬られようとしていた「もうひとつのビキニ事件」に光をあてたのは、高知県の港町で地道な調査を続けた教師や高校生たちだった。

ゴジラ (1954) デジタルリマスター版



TM&©1954 TOHO CO.,LTD.

1954年 製作：東宝
監督：本多猪四郎 特殊技術：円谷英二
出演：宝田明 河内桃子 平田昭彦 志村喬 村上冬樹 堺左千夫 菅井きん 橘正晃 手塚勝巳(ゴジラ) 中島春雄(ゴジラ)

「ゴジラ映画」の記念すべき第1作。太平洋で貨物船「米光丸」が原因不明の事故を起こし沈没する。大戸島の漁船に救われた乗組員は「どうもこうもねえ、海が爆発したんだ」と語る。暴風雨の夜、島に巨大な生物が上陸し被害が出る。古生物学者の山根博士らの調査団一行が海へ続く山の峰の向こうに見たのは…。

第2部
「また、必ず会おう」と誰もが言った。



©2013「またかな」製作委員会

2013年 製作：「またかな」製作委員会
監督：古舘智之
出演：佐野岳 杉田かおる 嶋田久作 塚本晋也 徳井優 水薫 戸田昌宏 唯野末歩子 瀧澤翼 角替和枝 古村比呂 国広富之 イッセー尾形

高校の同級生に嘘をついたことがきっかけで、一人で東京に行くはめになった和也は、途方に暮れている所を空港の売店の昌美に声をかけられ、彼女の部屋に泊めてもらう。昌美に静岡に住む別れた夫への使いを頼まれ、彼を訪ねた和也は、そこでふたりの心の傷を知る。別れ際、秋山は和也に言うのだった。「また、必ず会おう」

あの電燈



©東京藝術大学大学院映像研究科

2014年 東京藝術大学大学院映像研究科修了作品
監督：鶴岡慧子
出演：小林万里子 清水尚弥 竹下かり 涼凜 柳谷一成 吉田圭佑 鹿赤兒

ある朝、誰もいなくなった街。どうやら大きな台風が来るらしい。マドは自分の高校を訪れるが、やはり誰もいない。そこへ同級生の藤井がやって来る。彼に逃げるように言うが、藤井は一人で逃げることを拒む。二人は、残っている人がいないか街を探しまわり、様々な場所を訪れた後、閉鎖された工場へとたどり着く。そこは、マドの父親が死んだ場所でもあった。

11/30(日) 第1部
ペコロスの母に会いに行く



©2013『ペコロスの母に会いに行く』製作委員会

2013年 製作：『ペコロスの母に会いに行く』製作委員会
監督：森崎東
出演：若松了 赤木春恵 原田貴子 加瀬亮 竹中直人 大和田健介 松本若菜 原田知世 宇崎竜童 温水洋一 穂積隆信 澁谷天外 春風ひとみ 原田おさむ 根岸孝衣

原作は、長崎在住の漫画家・岡野雄一のエッセイ漫画。長崎で生まれ育った団塊世代のサラリーマン、ゆういちとは、ペコロス(小さな玉ねぎ)のようなはげ頭をを光らせながら、漫画を描いたり音楽活動をしている。彼は、父の死をきっかけに認知症を発症した母みつえの面倒を見る日々を送っていた。

SHORT PEACE



©SHORT PEACE COMMITTEE

2013年 製作：ショート・ピース製作委員会
・「オープニング」監督：森本晃司 声の出演：春名風花
・「火要鎮」監督：大友克洋 声の出演：早見沙織 森田成一
・「九十九」監督：森田修平 声の出演：悠木碧 草尾毅
・「GAMBO」監督：安藤裕章 声の出演：田村睦心 浪川大輔
・「武器よさらば」監督：カトキハジメ 声の出演：二又一成 檀田幸 牛山茂 大塚明夫 置鮎龍太郎

時は江戸。幼なじみの松吉への思いが募り、お若が情念から大火事を引き起こしてしまう物語。大友克洋の「火要鎮(ひのようじん)」をはじめとする4編の作品からなるアニメのオムニバス。

青天の霹靂

第2部
SRサイタマノラッパー
ロードサイドの逃亡者



©2012『SR3』制作委員会

2012年 製作：2012『SR3』制作委員会
監督：入江悠
出演：奥野瑛太 駒木根隆介 水澤紳吾 斉藤めぐみ 北村昭博 永澤俊矢 ガンビー小林 美保純 配島徹也 回鍋肉 smallest HI-KING aka TAKASE 倉田大輔

「SR サイタマノラッパー」 「SR サイタマノラッパー2 女子ラッパー☆傷だらけのライム」に続くシリーズ第3作。第1作で、ラッパー仲間のイックとトムと別れ、東京に出ていったマイティは、ラップをあきらめられず、「極悪鳥」というヒップホップクルーのバシリのような日々を送っていた。そんなある日…。

青天の霹靂



©2014映画『青天の霹靂』製作委員会

2014年 製作：「青天の霹靂」製作委員会
監督：劇団ひとり
出演：大泉洋 柴咲コウ 劇団ひとり 笹野高史 風間杜夫 柄本佑 入江雅人 前野朋哉 黒田大輔 中村育二 今井隆文 ヤマザキモータース 稲川実代子 バルト小石

マジックバーで働くうだつの上からぬマジシャンの晴夫、39歳に、絶縁状態が続いていた父の死の通知が入る。その遺骨を抱え、ホームレス生活だった父のダンボールハウスの前で、晴夫は「なんで俺、生まれてきたんだろう」と絶望に暮れる。そこに一閃の稲妻が光り、彼を40年前の浅草にはじき飛ばしたのだった。

ゲスト

監督 古舘智之
1968年長野県生まれ。
「まぶだち」で'01年ロッテルダム国際映画祭グランプリ。'05年「さよならみどりちゃん」で仏ナント三大陸映画祭準グランプリ。作品に'13年「また、必ず会おう」と誰もが言った。」「14年「無花果の森」など。



監督 劇団ひとり
1993年デビュー。2000年劇団ひとりとしてピン芸人に。2006年『万年筆ベストコーディネート大賞』受賞。2007年『エランドール新人賞』受賞。『ゴールデン・アロー賞』受賞。2009年『MTV VIDEO MUSIC AWARDS JAPAN 2009』MCを務める。2014年5月24日初監督作品『青天の霹靂』公開。



監督 鶴岡慧子
1988年上田市菅平高原に生まれる。上田高校を卒業し、創設されたばかりだった立教大学現代心理学部映像身体学科に入学、映画制作を学ぶ。卒業制作の「くじらのまち」はPFF2012グランプリを受賞。その後、東京藝術大学大学院映像研究科へ入学。修了作品の「あの電燈」、また最新作である第23回PFFスカラシップ作品「過ぐる日のやまねこ」は上田ロケ作品。現在は映画監督として活躍中。東京都在住。



うえた城下町映画祭実行委員長
映画評論家
品田雄吉
1930年北海道出身。北海道大学卒業後、映画雑誌「キネマ旬報」編集部、「映画批評」編集長を経て1965年よりフリーの映画評論家となる。執筆活動等他、各大学の教授・学部長を歴任。国際映画祭の審査員も多数務める。



女優 唯野末歩子
東京都生まれ。出演作に、毎日映画コンクール新人賞を受賞した『フレンチドレッシング』(98)、『さなみ』(02)、『それでもボクはやってない』(07)、『贖罪』(12 WOWOW)など。監督作『三年身籠る』(06)で第21回高崎映画祭若手監督グランプリ。著作に『三年身籠る』(05)、『正直な娘』(07)、『きみと澄むこと』(10)、『ほんとうに誰もセックスしなかった夜』(11)、『はじめてだらけの夏休み』(12)など。最新作は、中島哲也、門間宣裕との共同脚本『湯き』(14)



監督 入江悠
1979年生まれ。日本大学芸術学部映画学科卒業。2004年『SEVEN DRIVES』『部屋の片隅で、愛をつねる』で第二回自主制作映画コンテスト大賞受賞。2010年『SR サイタマノラッパー』で第50回日本映画監督協会新人賞受賞。2011年『劇場版神聖かまってちゃんロックロールは鳴り止まないっ』で高崎映画祭若手映画監督グランプリ。新作は2014年『日タロック』、2015年『ジョーカー・ゲーム』。



総司会 大岩堅一
1958年千葉県木更津市生まれ。早稲田大学教育学部卒。1980年大阪・朝日放送(ABC)にアナウンサーとして入社。1988年FM長野に移籍、「タブロイドラヂオ〜レツッ年〜」などを担当。2006年4月からフリーになり、SBCラジオなどに出演しながら各地のイベントの司会も務める。うえた城下町映画祭の司会は第10回から。現在は、あづみ野FMのシニア・ディレクター兼アナ。信州観光文化検定2級、松本検定・第1回合格。松本市在住。



会場＝上田映劇 幻灯舎
上田市マルチメディア情報センター



※駐車スペースには限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

